



モデル地区を紹介します

江津市桜江地区

災害に備え、5地区が連携

中山間地域では公民館エリア(旧小学校区)を基本に、地域課題の解決に取り組む「小さな拠点づくり」が進められています。しかし、人口減少と高齢化が進み、単独での取組が困難になることも考えられます。そこで、県では複数の公民館エリアの連携による取組を「モデル地区」として支援しています。

どんな地区？

平成の大合併前は1つの町であった桜江地区は、江津市南東部に位置し、長谷、市山、川戸、谷住郷、川越の5地区で構成されています。地区内には、中国地方最大の河川である江の川が悠々と流れています。旧町名に「桜」があるように、まちには桜の名所がたくさんあり、春になると、まち全体が桜の花に包まれます。

取組のきっかけは？

平成30年7月の集中豪雨で、桜江地区全体が甚大な被害に見舞われました。それ以降も災害が頻発していたことから、5地区が連携した防災体制の構築を求める声が上がリ、令和2年に「さくらえ地区小さな拠点推進協議会」を設立しました。地域コミュニティ組織に加えて、小中学校のPTAや商工会、民間企業、民生委員が参加しています。

さくらえ地区
小さな拠点推進協議会

いまだみつゆき
今田三之会長の話

近年の雨の降り方は異常で、土砂崩れが起きれば集落は孤立します。だから災害前の避難が重要です。5つの地区が連携して防災に取り組んで、災害時にどう対応するかを普段から考えています。地域みんなで支え合い、安心して住み続けられる桜江地区にしていきたいと思います。

どんな取組をしているの？

桜江地区全体の防災力を高める取組を進めています!!



担い手不足で、防災活動の継続が困難な状況になってきたことから、各地区の自主防災組織の代表で「小さな拠点推進協議会防災部会」を立ち上げました。

まず、地区ごとにアドバイザーの助言を受けながら防災訓練を実施。また、合同の研修会を開催するなど、体制の強化を図っています。

今後、地域全体の防災計画の策定や合同の訓練などを通して、5地区がお互いに支援し合う連携体制の構築を目指していきます。

このほかにこんな取組をしています 交流拠点施設「3Colors」オープン

長らく空き家となっていた本屋を改修し、地域の交流拠点となる施設を開設しました。

旧川戸駅のバス停近くにあることから、バス待合所や子どもたちの自主学習の場として利用されています。

そのほか、地域住民による学習見守りボランティアや多世代交流イベントなどの実施に向けて検討が進んでいます。



今後の計画

- ① 地区防災体制の構築
- ② 若年世代の定住促進
- ③ 高齢者の生活利便性向上

県では、「小さな拠点づくり」に向けて、市町村と連携して住民の皆さまをサポートしています。

活用しよう!「しまねの郷づくり応援サイト」各地区の人口推計などがご覧いただけます!

しまねの郷づくり応援サイト

検索

■ 問い合わせ先 / 中山間地域・離島振興課 TEL 0852・22・5065